



おかむら たけし
岡村 武

むかい は
無会派

教育における生きる力とは何か

問 津市総合計画後期基本計画（案）に、教育における目標として「生きる力を育む教育の推進」が掲げられているが、この生きる力とは何か。

また、生きる力を身につけさせるために、どのような方法で指導を行い、どのような能力を伸ばそうとしているのか。津市の教育において、目標としている人間像を問う。

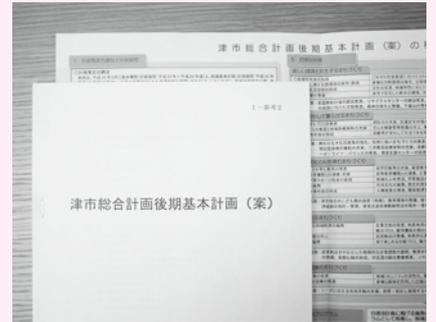
答 国際化や情報化などが進む中で、変化が激しい時代にあっても生き抜く力とは、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力であると考えている。指導方法としては、例えば確かな学力の場合、いわゆる「読み書きそろばん」といった基礎的なことをしっかりと身につけさせ、それらを活用して、自らが課題解決をする力を養えるよう、あらゆる教育活動を通じて取り組んでいる。

また、いろいろな体験や人と接することによって、豊かな、幅広い人間性が育まれるものと考えている。

このような指導を通じ、社会に貢献をして、きちんと社会を生き抜く人間に育てていきたい。

●その他の質疑・質問●

- 市長コラムについて
- 下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法（合特法）について
- 生活保護費の現状と対策について
- JR名松線について
- 地域かがやきプログラムの温泉利用について
- 津波避難ビルについて
- 都市計画道路について など



▲現在策定中の津市総合計画後期基本計画（案）



こばやし たか とら
小林 貴虎

しみんくらぶ
市民クラブ

国際的感性と英語教育の充実に関して

問 国際空港に最もアクセスしやすい県庁所在地の一つであること及び外国人集住地区であることは、我が市の持つ特色の一つである。生徒たちが国際的感性を醸成し、意思伝達技能としての第二言語である英語の実践的習得のために、この環境を積極的に利用すべきである。

他市より優れた英語教育を実現するつもりがあるか。また、その具体的な方法は。

答 英語教育の充実を図るために、ある小学校では、文部科学省の教育課程特例校として、全学年で英語の授業を実施している。この取り組みは、長い期間実践研究を積んでおり、毎年非常に緻密な指導案と成果・課題の報告を作成し、全校に発信している。また、ある学校では、毎朝5分間のイングリッシュタイムを設定して、英語に慣れ親しむ取り組みをしている。他にもフェスティバルを開催して英語の劇などを地域の方々に発表している学校もある。

これらの先進的な取り組みが、これからの子どもたちの外国語活動への関心を高め、活動の充実につながっていくことから、この手法を各校に紹介していくことで、広がりを見込んでいる。

●その他の質疑・質問●

- 津インター前の開発は何十年にもわたって望まれながらも実現できていない事業である。法律上の困難を乗り越えるために、新津市全体の農業計画および都市計画を新たに作り、当該地域の開発を大きく進めるつもりはあるのか
- 新百五銀行本社ビルに津城展望スペースを要望できないか
- 超小型車の認可に関して



▲市内小学校でのコミュニケーション活動の様子